

会議議事摘録

会議名	平成 27 年度第 2 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 27 年 11 月 29 日 (日曜日) 14 : 00 ~ 16 : 00 (2.0h)
場所	本校 3 階 302 教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：岩間みどり(保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、野間 弘(卒業生)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者) (計 6 名)</p> <p>②学校：橋本正樹 (校長)、藤野 裕 (参与)、宮下明久 (事務局長)、前田律子 (看護科担当副校長兼学科長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、菊池聖一 (診療情報管理専攻科学科長)、中村博臣 (くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、檀 貴与 (鍼灸医療科学科長)、村山由美 (教務委員長) (計 11 名)</p> <p>③事務局：高橋 稔(校長室) (計 1 名)</p> <p>(参加者合計 18 名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>①事前送付： □資料 1：平成 27 年度第 1 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2：平成 27 年度学校関係者評価委員会報告案。□資料 3：平成 26 年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組状況報告 (中間点検)、□資料 4：平成 27 年度重点目標の中間点検報告</p> <p>②本日配付： □資料 5：平成 27 年度学校関係者評価委員会報告様式、□資料 6：平成 27 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告 (A：平成 27 年度退学状況、B：平成 27 年度進路決定状況、C：平成 27 年度前期授業アンケート集計結果、D：平成 27 年度学校生活に関する調査・挨拶に関するアンケート用紙、E：平成 27 年度教員研修計画、F：平成 28 年度学生募集状況、G：平成 27 年度学園祭パンフレット)</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、今年度は 4 月から看護科を開設して、医療福祉の専門学校として新たなスタートを切った年となったこと、また、平成 30 年度の 18 歳人口の減少に向けて既存学科の再編、教育対象としての外国人や社会人への教育の可能性を探るスタートを切った年であること、そして、現在中教審の特別部会において高等教育機関の新学校種として専門職大学が検討されており、その中で教育の質保証、大学で行われている機関別評価に加えて、教育分野別の質評価の必要性も検討されていることから、専門学校においても教育の質に対する要求が当然厳しくなってくることが報告された。</p> <p>また、学校関係者評価委員会は、学校が社会と共存する中において良い方向に進めていくために意見を伺う場と考えている。本日は今年度の中間報告を行うが、意見交換の時間を多くとってご意見を賜りたいと思っているとの挨拶が行われた。</p>

2. 前回委員会議事録の確認

保坂委員長より、前回議事録（資料1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。

3. 経過報告（説明者：宮下事務局長、村山教務委員長、事務局高橋）

本日配付資料の確認の後、平成27年度第1回委員会以降の主な経過について、資料6の説明が各担当（学生募集：事務局長、教員研修：教務委員長、その他：事務局）より行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問と意見があり、それぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①診療情報管理専攻科の退学生について
- ②今年度の内定状況について

4. 平成26年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組状況報告について（説明者：事務局高橋）

前回委員会での報告以降の進捗状況（中間点検）について、事務局より資料3の概略説明が行われ、確認、了承された。

なお、委員より以下について質問があり、それぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

- ①医療事務系教育高度化検討会について
- ②目標面接から見たTPCの実践具合について
- ③豊島区オープンスクールの講座内容、PRについて
- ④実習先の新規開拓について

5. 平成27年度重点目標の中間点検報告について

橋本校長より、資料4に基づき、今年度の3つの重点目標（①TPCの育成と強化、②退学防止、③教員研修）の中間点検結果について説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

なお、委員より教員研修について質問と意見があり、説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

6. 平成27年度学校関係者評価委員会報告案について

保坂委員長より、前回委員会において質疑をいただいた、平成26年度活動の自己評価報告に対する本委員会の意見を、平成27年度学校関係者評価委員会報告案（資料2）としてまとめたので、重点目標、各評価項目の順に質疑をお願いするとの説明があり、資料2の構成について事務局より説明の後、評価項目毎に検討を行った。

審議の結果、報告文書の最終的な整理とまとめは保坂委員長に一任して、平成27年度学校関係者評価委員会報告が確認、了承された。詳細は、別紙のとおり。

なお、本報告書より、各委員の総評も記述することから、委員長の氏名順に発言をお願いした。詳細は、別紙のとおり。

7. 次回日程、その他（説明者：事務局高橋）

各委員の日程確認が行われ、第3回委員会は3月19日14:00～16:00に開催予定とした。次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ・平成26年度委員会報告に示された課題への取り組み年度末報告
- ・平成27年度重点目標の年度末点検報告
- ・平成27年度の学校関係者評価報告に示された課題への取り組み説明

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

別紙

平成 27 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

3. 経過報告について

○事務局高橋、宮下事務局長、村田教務委員長より、担当する項目について、資料 6（別添 A～G）に基づき平成 27 年度第 1 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

- (1) 職業実践専門課程関連
- (2) 退学の状況（別添 A）
- (3) 就職内定の状況（別添 B）
- (4) 平成 27 年度前期授業アンケート（別添 C）
- (5) 平成 27 年度後期アンケート（別添 D）
- (6) 平成 27 年度教員研修実施計画・実施状況（別添 E）
- (7) 平成 27 年度授業公開
- (8) 入学試験及び出願状況（別添 F）
- (9) 平成 27 年度活動の自己点検・自己評価の予定
- (10) 保健室への看護師配置
- (11) 学園祭（別添 G）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 診療情報管理専攻科の退学生について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□診療情報管理専攻科が 4 名退学になっている。退学は、学年が上がるにつれて少なくなるのが一般的だと思うが、診療情報管理専攻科は医療マネジメント科を卒業して入る科とすると、ちょっと多いなという印象を受ける。</p>	<p>1 年制学科でなぜ途中で脱落するのかだと思いが、専攻科は、希望者は原則受け入れていることから、診療情報管理士を目指す学力が伴っている学生ばかりではないという実態がある。今年度の進学者は 54 名で、前年度 29 名から一気に増えた。次年度に向けては、質も伴うよう専攻科入学時の条件を設けることも検討している。（橋本校長）</p> <p>□今年の専攻科生は 6 割近くの進学であり、周りの雰囲気に乗せられて、目的意識がなく進んだ学生も含まれていた。</p> <p>実際に退学生の状況を確認すると、2 名は就職が決まらないのでとりあえず進んだ者、他の 2 名は、仲の良い友達と一緒に進んだが、自分が思っていることとは違うのでやめたいと 1 名が申し出たら、直後にもう 1 名も同じ状況となり、4 名の退学となった。現 2 年生については、現在一人ずつ面談をして、専攻科に進む目的意識を確認している。</p>

(2) 今年度の内定状況について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
-------------------	-----------

<p>□介護福祉科の内定率が昨年度と比べて差が大きい、どういう分析、また印象を持っているのか。</p>	<p>□内定率が低いのは職業訓練生に原因がある。職業訓練生のクラスには介護を目指す意識の低い訓練生もいて、なかなか就職に結びつかない。これは学科の悩みでもある。本科生は卒業したら就職するという意識があるので心配していない。今年はまだ出足は遅いが、間違いなく全員が就職する予定である。(岩上学科長)</p> <p>□C S Cからは2つある。1つは学科長の説明の通り、訓練生が全く決まっていない。もう1つはC S Cからの学生への働きかけが少し弱かった。例年は夏休みにいただく求人をきっかけに活動を開始する学生が多くいるが、今年の夏は、医療事務系の求人が比較的活発に動き、そちらに追われて出遅れたことがこの数字に結びついている。</p>
<p>□医療事務系の内定率に差があるのは、どんな要因か。</p>	<p>□医療秘書科2年生は、コース別にクラス編成をしている。A、Bクラスは医療事務を主体とする進路希望、C、Dクラスはクラーク希望が多い。一般企業も念頭に入れた学生がとりあえず選んでいる傾向もあり、11月末でまだ進路を確定できていない学生もいる。</p> <p>医療事務系の求人は活発に動いているが、クラーク求人の動きが多少鈍いことも影響している。資料は10月末の数値で、現時点ではDクラスの未決定はあと5名、Cクラスもこの1カ月間で5名内定しているので、年度末に向けて数字が整っていくと思っている。(石川学科長)</p> <p>□医療マネジメント科は、Aクラスは在籍者59名に対して就職希望者が4名、55名は現時点で専攻科への進学を希望している。4名のうち3名が内定し、内定率が75%になっているが参考になる数字ではない。</p> <p>Bクラスは25名全員が就職希望、10月末では11名内定で44%だが、現時点でもう少し高くなっている。今年度のBクラスは、活動をしている学生の比率が高く、C S Cも熱心に支援し、学科との連携も上手く取れているので、さほど心配はしていない。年度末までには順調に進むのではないかとと思っている。(黒田学科長)</p> <p>□専攻科生の就職活動が遅れがちになるのは、2月の認定試験を優先している学生がいることか</p>

	らであり、例年と同じである。もう1つの理由は職種にこだわる学生が多いこと。残念ながら、全員が診療情報管理士として就職できる訳ではなく、途中で医事課あるいは医師事務補助へ変更していくが、その調整が本人の中で難しく、まだ定まらない学生がいる。学科の特質としてやむを得ないと思っている。
□関連情報として、今年2月介護保険のマイナス改定があったので介護施設も採用を控えるということが多分あると思う。医療事務関係は、今年は順調ということだが、来年4月の診療報酬の改定は多分マイナス改定になると言われている。事務系の採用に影響してくるので、来年度は心配かと思う。	□ご意見として伺った。

4. 平成26年度学校関係者評価委員会報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方について

- 事務局高橋より資料3の構成と「※3：27年度中間点検」の記述経過について説明が行われた。
- 保坂委員長より、資料3は事前配付しており、また資料中の※1と※2の部分は、前回委員会において報告を受けているので、※3の27年度中間点検について質疑応答を行いたいとの説明があった。
- 委員からの質問と回答は次のとおり。

(1) 医療事務系教育高度化検討会について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□医療秘書科にプラス1年の専攻科を設けるとのことだが、平成28年度から募集して29年度に開設か、また教育内容はどのようなものか。	□専攻科は、来年度に募集して29年度からスタートする予定。現在計画しているのは、医師により近い事務、業務ができることを高度化と位置づけ、医師事務作業補助者の資格試験を取得した上で、カルテの代行入力を含めて仕事ができる人材、本校のルーツの記録の視点も含めながら、医師を助ける事務作業などで活躍できる人材の育成を考えている。今は医療事務系学科が学生を集めているが、仕事の高度化に対応できないと減っていくのは目に見えており、その意味の対応もある。平成30年度に向けて卒業生を送り出していきたいと考えている。
□診療情報管理士の資格と比べてどうなのか。また、プラス1年で2年課程よりもよい条件で受け入れてくれるのか。その辺の感触は。	□医師事務作業補助者は、資格があるからすぐ仕事ができるかという点、実態はそうではないので、記録をメインテーマとして、実際にその仕事の中身ができて、現場ですぐ使える人を目指している。 また、職种的により高度なものなので、現場に

	そういった人材が必要ということを医療機関等に積極的にアプローチして、待遇面も含めて開拓していくことが必要だと思っている。競合校とは違った視点で先に進めていきたい。
--	---

(2) 目標面接から見た TPC の実践具合について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□TPC の強化・育成についてはいろいろな場面で実践されているが、教職員がどの程度そのことを意識し、授業の中で実践しているか、面接を通しての感触はどうか。	<p>□意識化はされてきていると思っている。ただ、現実の問題として、上と下が膨らんで真ん中の層がへこんでいるという学力の二極化があり、一斉授業ではなかなかうまくいかない、非常に教えにくい状況にある。このため教員によっては個別指導も含め、アクティブラーニングなどの手法も取り入れつつある。</p> <p>中教審の部会では今ある職業がこの先どうなるかが話題になった。アメリカでは 2011 年度の小学校入学生が大学を卒業するころには 65%が今はない職業につくだろうとか、今ある技術も 4割近くが自動化されてしまうという予測もあった。本校の 2-40 プロジェクトは、職業自体が変わっても、それについていける人材の育成という意味がある。そのためには視点を広げて、深さも追求しなければならない。現場の教職員は、その方向については誰もがそう思っている。一步、半歩ずつかも知れないが着実に進行していると見ている。</p>

(3) 豊島区オープンスクールの講座内容、PR について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□前回は質問したが、豊島区オープンスクールは前年が 4 名で今年も 3 名という参加者数だが、このまま続けるのか。開催の流れはどうなっているのか、またどう PR しているのか。	□現在は、豊島区の専修学校各種学校協会がこういう講座をやるので豊島区で後援をしてくださという流れになっている。今年も後援はしていただいたが、文章量制限で豊島区報に全部の講座を紹介しきれないということが起きてしまい、募集が厳しい中でさらに条件が悪化している。協会としてもっと積極的にとは思っても、各校の手弁当でやっている講座なのが難しいところ。ただ、地域貢献の意味合いでは意義がある講座なので、豊島区との協力関係をもっと協会から強くアピールしていくことが課題になっている。
□豊島区の講座に学校が講師を派遣する形か。PR は豊島区以外に学校のホームページに載せ	□各学校がそれぞれの学校内で行う講座になっており、講師を派遣する形ではない。学校のホー

<p>るとか、学生を通して保護者にチラシを渡すようなことはどうか。</p>	<p>ムページ掲載は行っているが、参加者を募る対象は豊島区の地域の方になるので、保護者へのPRはしていない。</p> <p><input type="checkbox"/>豊島区は教育には力を入れているものの、どちらかというと大学との関係に力を入れている印象があるので、大学と同じように区内の専修学校各種学校にも力を入れてほしいという要望は出している。今年度は相談役の豊島区議を通じて働きかけを強めていきたいと協会としては思っている。</p>
<p><input type="checkbox"/>やる以上はPRして人を集め。それで講座を成功させる。ただ、成功したからといってそれがどうか、地域貢献はあるが学校にとって何がメリットかというと色々議論はあると思う。(野間委員)</p> <p><input type="checkbox"/>生涯学習という観点でなく、地域社会への貢献として考える必要がある。</p>	<p><input type="checkbox"/>ご意見として伺った。</p>

(4) 実習先の新規開拓について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>介護福祉科の新規実習先の開拓では、数はもう足りているのか。</p>	<p><input type="checkbox"/>施設の方はかなりの数を確保している。ただ、特養がもちろん多い。小規模多機能やグループホームでの実習も取り入れたいと考えているので、今はそちらの開拓をしようと考えている。</p>
<p><input type="checkbox"/>介護報酬の改定で就職の動向も変わってきている部分は確かにあると思うが、介護人材不足は必ずある。練馬区でも施設がたくさんできて人の取り合いという現象になり、特養の中にはフロアがあるのに人がいないから閉鎖するということも起きている。施設側からすると、良い方が実習に来てくれて、うまくマッチングしてそのまま就職してくれればという思いがあるので、小規模多機能にしろ、グループホームにしろ、在宅も含めて開拓のチャンスのも時期でもあると思う。</p>	<p><input type="checkbox"/>ご意見として伺った。</p>

5. 平成27年度重点目標の中間点検報告について

○橋本校長より以下の説明が行われた。

- ・今年度の重点項目は昨年とほぼ同様のものを挙げている。
- ・TPCの育成と強化は、今年度は特に指導事例の可視化を推進していくという方針で、例えば教育研究誌に今やっていることをアウトプットすることなど、ほかの人にも見てもらい、さらに進化させてい

くアクションを取るために、見える化、事前の可視化を推進している。私自身も教育研究誌への投稿を続けていく。継続テーマとしてさらに前進させたいと思っている。

- ・退学防止については昨年と同じ 3.5%以下の年間退学率を示したが、資料4にある通り、9月末時点で退学処理したものが25名になり、在籍数から見ると3.1%、目標にあと3名であり、厳しい状況になっている。
- ・今年度前期は、資料6にもある通り、保健室の担当者を予算の関係で配置できなかった。昨年までは担任と学生相談コーナーの相談員に保健室、この三者の連携によって退学を防ぐ仕組みができつつあったが、前期はこの機能が働かなかったことから、担任は学生相談コーナーの相談員に相談することになり、その中での努力になった。防ぎきれない退学は必ずあるにしても、防げる退学をどう防ぐかが課題であり、それについては11月以降保健室に担当者を配置できたので、前期よりは改善、連携が見込めると思っている。
- ・退学防止の事例について情報を共有しようということで、経過を記入したものを学内ネットにアップして見られるようにすることを具体的に進めている。地味な対策ではあるが、これ以上増やさないことを目標に後期も気を引き締めてやっていきたい。
- ・教員研修は、資料6にもあるように教務委員会が情報を取りまとめて、お互いの研修を分かるようにする。そして具体的に内部研修や外部研修に参加するという進めている。
- ・授業公開は、自分の授業をやりつつ他の授業を見る余裕がないということもあって、なかなかうまく進んでいない。課題としては、今は常勤教員だけでやっているが兼任の先生方にも加わっていただく、期間も特に限定せずにお互いに見るといったことがある。現在は、授業参観レポートには公開した先生に役立つように、こういった点が参考になるといったコメントを寄せる形になっていて、書くことに負担を感じている人もいる。参観によるプラス面は必ずあるので、忙しい中ではあるが、機会の拡大を続けていきたい。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 教員研修について

学校関係者評価委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□期間を拡大しても授業公開の参観者がふえないということだが、研修は個人でやるものだから自分の授業のことは自分でやるという意識の人がかなりいるのではないか。学校全体の指導力を高めていくには組織で取り組む部分が非常に大きい。個人だけでなくチームとして、学校として授業改善を進めていくことが必要で、教員の意識が自分の専門に集中している面を打開していくことが求められると思う。</p> <p>保護者連携も努力しているが上手くいかないということなので、例えば保護者会を開くときに授業の中身を保護者の方にお知らせするなど、先生方にも少しずつ意識を変えてもらうことをしても良いのではないか。</p> <p>教員の意識という点では、自分の専門以外の</p>	<p>□研修については、医療事務系では教科系を編成して、同じ専門分野の教員同士が定期的に検討する委員会もやっており、検定対策や過去問題集をまとめたりしている。以前は複数の教化系を編成していたが、学校の規模が縮小していく中で、各専門領域の先生方の数が減ってしまい、今成立しているのは医療事務系だけになってしまった。</p> <p>専門学校においては、それぞれの実務経験で自分流の授業という傾向もあると思う。中教審の新学校種の専門職大学検討の中でも、教員資格というところで議論されているところであり、例えば教え方の基準を、事前研修でやるということもあると思うが、まずは授業公開でお互い見せ合う、企業秘密ということではなくて、全員が公開して</p>

<p>部分でお互いに協力してやっていくことは難しい。しかも兼任講師の先生方が圧倒的に多い中で研修をどう進めるかは非常に難しい課題だと思う。</p>	<p>良くしていこうという場の空気を作ることを、地道ではあるがやっていかざるを得ない。</p> <p>佐藤先生のご指摘のように、もう一つの課題、例えば保護者の方たちに授業公開する機会も、できれば期間を設けて実施することを考えたい。学科の賛同が得られれば、是非検討したいと思っている。</p>
<p><input type="checkbox"/>小さくなったとはいえ学科ごとに何人かの先生はいるので、学科長が主導して先生方に声をかけて、一つのテーマで話し合いや研究をするような場をつくり、そこから授業公開につながるような流れができると良いと思う。(保坂委員長)</p>	<p><input type="checkbox"/>ご意見として伺った。</p>

6. 平成 27 年度学校関係者評価委員会報告案について

○最初に事務局高橋より、資料 2 に基づき平成 27 年度学校関係者評価委員会報告案について以下の説明が行われた。

・昨年度と検討資料の作り方を変え、資料 2 の左側には本日ご検討いただく基となる以下の 3 資料の要点を記述した。

①平成 26 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）

②平成 26 年度重点目標達成の自己評価

③平成 25 年度学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題への取組・改善の進め方報告

・そして、6 月の今年度第 1 回委員会での審議とその前の平成 26 年度第 3 回委員会でもいただいたご意見を議事録から右側「学校関係者会議の評価、意見」にまとめた。アンダーラインがないところは特にご意見がなかったところで、学校の報告をそのまま受けた形になっている。アンダーライン部分が提案と意見をいただいた部分になる。

・毎回の説明になるが、職業実践専門課程の認定校は文科省のガイドラインに示す全項目について、学校関係者評価委員会の評価を受けることになっており、従って全項目について左側の報告に対して右側の評価、意見を記述してある。

○保坂委員長より、学外公表する報告書に記述する内容を資料 2 の右側「学校関係者評価委員会の評価、意見及び提案」に前回までの議事録からまとめていただいたが、今回はこの記述に対して追加、訂正の意見を頂戴して報告書の最終まとめを行いたいとの説明の後、審議が行われた。

○委員からの意見は次のとおり。

I 全体を通した文章表現

・文中の本校という主語は減らす、また要望の表現は用語を整理し、分かりやすくする。

II 重点目標と達成するための計画・方法について

・教員研修については、授業公開は「効果的な進め方について工夫する」と表現変更する。

III 評価基準に基づく各評価項目について

1 教育理念・目的・育成人材像 修正意見なし

2. 学校運営

- ・「組織内における浸透度の確認を工夫して進めてほしい」は、浸透度の確認というよりは、浸透させるということが大事なので「浸透させた運営」に表現を変更する。

3. 教育活動

- ・教育活動の目標設定は、各学科の教育活動、具体的な応用を期待されるというところなので、「PDCAサイクルに基づき各学科の教育活動に具体的に組み込んでほしい」ということだと思う。
- ・教育方法・評価等のコマシラバス部分で、「過去の経験からは」は削除する。
- ・成績評価・単位認定等の入学案内書やホームページに掲載する部分は「積極的にアピールする」に表現を変更する。
- ・教員・教員組織の資質向上への取組部分で「機会を有効的に生かす」は活用の「活」の方が良い。・資格・要件を備えた教員の確保で「教員レベルは業界レベルに十分対応」というのは良く分からないので「業界のニーズに十分対応、維持している」に表現を変更する。

4. 学修成果 修正意見なし

5. 学生支援

- ・学生相談と健康管理体制のアンダーライン記述は、前回の議論になったことは、本日の報告にもあるように、その後改善したということで削除いただければと思う。
- ・議論の中でご指摘いただいたことは改善したということなので、最終的な報告書には記載しない。
- ・保護者との連携は、専門学校にとって重要な課題と考えるので、ここはもう少し踏み込みたい。・具体的な文言を入れて「保護者会についても検討して欲しい」とすれば良い。

6. 教育環境 修正意見なし

7. 学生の募集と受入れ 修正意見なし

8. 財務 修正意見なし

9. 法令などの遵守 修正意見なし

10. 社会貢献・地域貢献

- ・社会貢献・地域貢献は「取り組みの推進が必要である」に表現を変更する。

○保坂委員長より、以上で報告書の審議を終了した。本日も指摘をいただいた部分は文言を修正し、それをもって最終的な報告書を作成し、年内に校長に提出する予定。修正した報告書は提出前に事務局から委員の皆様にお送りするが、最終確認は委員長に一任してほしい旨の発言があり、確認、了承された。

○最後に、保坂委員長の指名順に各委員の総評が行われた。

(佐藤委員)

○授業、就職指導、学校行事をはじめ様々な場面での教育活動によく取り組んでいると思う。また、学校関係者評価委員会の意見を取り入れ、改善に向けての努力も評価できる。

○課題は、TPCが教職員にどこまで浸透しているかということや、教員研修や保護者との連携などにおいて、まだやるべきことがあると思う。全般的には非常によく努力していると思なので、課題解決のために、これからも是非取り組んで欲しい。

(野間委員)

○この活動自体、第三者の目で見ることによって緊張感が生まれて、内容も充実してくるものだと思う。ただ、何か実行する際には期限を設けた方が良いのではないかな。

○また、資料にはステークホルダー、プレステージ・スクールなどの横文字や、TPC、CSCなどかの略語が使われているが、こういう言葉に馴染んでいないと混同してしまこともあるので、最初に出てくる

ときには、カッコで日本語の意味をつけるとか、またマーケティングの用語は教育現場で馴染むような言葉に置き換えるなどして、資料の作り方をもうひと工夫していただければと思う。

(藤井委員)

- 先生方が病院見学や外部研修に行ったりして、積極的に努力していることは非常に良いと思っている。授業公開等はまだまだ課題はあると思うが、そういった取り組みをすることで情報や問題点の共有ができると思う。また、一人でなく、みんなで解決していく姿勢が見られる点も非常に良い。
- 学校関係者評価委員会も要は学校を良くしていこうという会議である。誰のために学校が良くなるかなくてはいけないのかというと、学生のためという大前提の視点があるので、それを今後も忘れないで欲しい。

(宮武委員)

- 既に決められた点検評価項目に従っていることから、非常に多岐にわたっていて、現実的にできるかという点で難しい部分もあると思うが、その項目についてのデータの取り方や評価の仕方はきちんとしていていると思うし、外部の目に耐え得るものだと思う。
- これだけ項目が多いと分散してしまう懸念があるので、すぐにできるものとできないもの、抽象的で私たちの意見がなかなか出なかった部分などにも優先順位を付けて、集中して対応していただければと思う。

(岩間委員)

- 社会のニーズや現場のニーズも年々変化していると思うが、それに常に即すような学校づくりという点で、日々検討、実践いただいていることが分かり、本校が安心して子どもを通わせられる学校であると感じ、保護者として安心することができた。

(保坂委員長)

- たくさんの項目全てで100点を取ることは無理なので、重要課題を幾つか挙げて、それに重点的に取り組むことが必要と思う。本校の自己点検委員会はよく頑張っていると思うが、是非息切れしないようにして欲しい。
- 学生が生き生きしていることが学校の一番重要なところだと思うので、行事等に参加する学生の活動が、評価やTPCに結び付くと良いと思う。

以上